

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300647
法人名	有限会社八起
事業所名	グループホーム新池
所在地	北九州市戸畑区新池3丁目3-19
自己評価作成日	平成23年9月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月2日	評価結果確定日	平成23年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

代表や従業員が地域住民であることや、代表家族が同じ敷地内で生活をしており、家族同様に生活している。また代表は、地域住民とも馴染みの関係が多く、民生委員等の協力により、地域交流ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は、幹線道路沿いに位置する2階建て1ユニットのグループホームである。代表者の住まいが隣接し、それ故、近隣住民とも馴染み深く、良好な関係が築かれている。高齢者世帯が多いこともあり、代表者は、日常的に介護相談に応じている。玄関に掲示された「10時と15時のお茶を一緒にどうぞ」と呼びかける張り紙から、地域に開かれた事業所であらんとする確かな思いを感じることが出来る。代表者は、入居者本位の支援に徹し、身体的はもとより、経済的なニーズにも対応し得る運営を実践している。その姿勢は家賃設定等にも表れており、行政を始め、切実なニーズを抱える各方面から、大いに頼りにされているところである。この運営方針を、職員一人ひとりが真摯に受け止め、日々の業務に当たっている。例えば、朝食の買出しや、犬の散歩、花の水やり、猫の世話等、入居者一人ひとりの確かな役割が、日々の暮らしの中に位置付けられており、そのことが楽しみや、やりがいになっている。室内は、施設特有のグリーンで無機質な味気なさは、微塵もなく、生活感たっぷりの雰囲気にも包まれている。各居室内や、入居者の様子から、一人ひとりの意向やライフスタイルが、尊重されていることが、実感出来、訪れる者に、活気とあたたかみを与えてくれる。以上、グループホーム新池は、確かな信念と、誠実さに裏打ちされた、今後が益々期待される事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境でその人らしく、生活しているよう職員と理念を共有し努めている。	設立時より、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げている。その文面から、作者である代表者の熱意と、思いの深さを感じることが出来る。内容については、日常的に説明がなされ、職員間で共有が図られている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、馴染みの関係を作っている。	日常的に地域住民から、認知症や介護に関する相談を受けている。また起業祭や盆踊り、ふれあい交流会等、地域の行事には積極的に参加し、地域住民と親睦を図っている。玄関には、10時と15時のお茶の時間への誘いを呼びかける掲示があり、地域に開かれた事業所作りを行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症等の相談を受け付け、独居高齢者の状況を会話で探り、支援につなげている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修実施、活動報告等や困難事例についても話し合っている。	民生委員(複数名)や、地域住民、家族、地域包括支援センター職員の参加で、2ヶ月に1回開催している。毎回、議題設定も出来ており、参加者は、活動報告を受け、忌憚のない意見交換を行っている。防災訓練についても、地域住民参加で、連携方法について話し合われる等、有意義な会議運営となっている様子がうかがえる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者外出時等に訪問し、相談をしたりしている。	代表者は、日頃から、質問や相談があれば、電話ではなく、直接訪れて、その解決を図っている。また生活保護担当者の定期的な訪問があり、情報交換を行いながら、連携を取っている。双方とも顔の見える良好な関係作りが出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠をしておらず、身体拘束の研修をしている。	職員は、研修を通して、身体拘束に関しての禁止の対象となる具体的な行為や、その弊害について、周知しており、身体拘束をしないケアに一丸となって取り組んでいる。実際、玄関の施錠もしておらず、職員の随時の声掛けや見守りで対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修を受けている。		

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修を受けている。運営推進会議においても話し合っている	現在、制度利用者はいないが、職員は制度の必要性を理解し、研修や運営推進会議の場で話し合う等、理解と周知に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時に管理者か代表が説明をし理解、納得を図っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見を交換し、反映させている。	3ヶ月ごとに写真入りの便りを送付し、暮らしぶりを伝えている。また面会を促す意図から、月々の利用料の支払いを振り込みでなく、直接払いとしており、来訪時にはコミュニケーションを図りながら、意見の出し易い雰囲気作りに努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議において意見の交換をし、反映させている。	毎月の会議では、忌憚のない意見交換がなされ、職員の提案も、「まずはやってみる」という方針のもと、積極的に取り入れられ、運営に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人、中堅の研修を実施し、向上心を持ってよう努めている。残業はほとんどない。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	やる気とやさしさ、向上心があれば採用している。	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。実際に、幅広い年齢層の男女が勤務している。資格取得や、外部研修への参加も奨励されており、希望すれば、勤務調整が図られる。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一ヵ月一回の会議において、啓発活動をしている。	毎月の職員会議や、平素の業務の中から、実際の仕事を通して、人権教育・啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、資格取得のためにシフトを変更し協力している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	約3ヶ月に1回、他のグループホーム等との交流会に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の前では言えない事があるかもしれないので、本人とだけの面接を複数の職員で実施している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけて要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に添えるよう他協力期間との連携に努め、他のサービス利用対応できるようできるようにしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力によりホーム内での日常生活の家事を共に行っている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一か月に一回は支払いの際入居者に面会してもらい、時には外出するよう声掛けしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院、HP、スーパーマーケット等、本人の意見を取り入れ、また友人・知人には面会に来てくれるよう声掛けをしている。	本人の希望や、家族からの情報を基に、馴染みの場所や大切にしてきた人・場所を把握し、途切れない関係作りに努めている。実際に、家族と一緒に買物に出掛けたり、職員と共に美容院や、病院、スーパー等を訪れており、馴染みの関係の継続が図られている。	

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で過ごす時間を作り、ホールで各入居者の能力に合った家事やゲーム等をして、相互関係を作っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり退居となっても面会には代表・職員が行き、出来る手伝いを実施。家族には、暑中見舞、年賀状等を送付している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス時や日常生活時において、本人の希望に対し早急に対処している。	アセスメントはケアチェック表(包括自立支援プログラム)を採用しており、内容は、ADL中心である。思いや意向、生活歴等の把握については、本人や家族、友人、知人からの情報を基に、アセスメントを補っており、可能な限り本人本位の検討に努めていることがうかがえる。	職員各々は、入居者一人ひとりの生活歴や、嗜好、好み等を把握出来ていますが、より本人本位の支援をチームで行う観点から、これらを共有するしくみ作りが望ましいと考えます。例えば、アセスメントに生活歴や、嗜好等を記載出来るようにする等、記録として残し、職員間での情報の共有を図り、より効果的な本人本位の支援につながるような仕組みの構築を期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人、友人により情報を得て、馴染みの暮らし方に添うように対応している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の経過表、日誌で把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で本人本位のケアを話し合い、カンファレンスに活かしている(ケアプランにも)	本人・家族の意向を踏まえ、職員間で話し合いながら、介護計画を作成している。計画書の内容から、本人のニーズを反映した「個性」が確認出来、本人本位で検討されていることがうかがえる。見直しについても、定期的、及び状態変化に応じて柔軟に行っており、現状に即した計画書となっている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過表と別に一ヶ月の様子の記録をし、家族にも見て頂き活かされている。		

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の相談受け付けは当然ながら、他の施設情報等を知らせたりしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の協力や近隣住民の方にも、馴染みの関係により支援出来ている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望を優先し、家族との会話により決めているが、緊急時には変更も有る事を承諾して貰っている。	かかりつけ医については、本人の希望を優先し、家族とも話し合いながら決めている。受診については、本人の納得が得られた医療機関に、職員同行で対応しており、適切な医療が受けられるよう支援に努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録を作成しており、入居者の体調変化時には連絡をし、助言を得ている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の認知症の状態を家族より医者へ説明をしてもらい、早期退院に努めている。面会時には担当NS、医者に話をするようにしている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見守りの指針については状態の変化に応じて、医者、家族と随時話し合い文書に残している。	看取りについては、入居当初だけでなく、状態変化に応じて、本人・家族の意思確認を行っている。また本人や家族、医師と話し合いながら、本人にとって、より良い終末期を迎えられるよう努めている。基本的には「食べることが出来なくなったら病院へ」との方針を持っているが、家族が付き添う等の協力が得られるならば、見取りを行う意向もある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にての救急の研修を実施しており、ホーム内でも訓練している。		

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時には会社関係の協力が得られる。防災訓練は年二回実施をし、消防の研修にも参加している。	消防署の協力・指導を仰ぎながら、年2回の訓練実施や、運営推進会議での説明会、研修への参加等、災害対策に努めている。また平素から、近隣の会社に災害時の協力依頼を行う等、協力関係が構築出来ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	問題があれば入居者の個室にて時間を掛けて話し合う様にし、入室には声掛け、ノックをしている。	日々の暮らしの中で、入居者一人ひとりの思いや、希望、自由を大切にしている。好きな髪形、服装、ライフスタイルを尊重し、介護計画書にも反映されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気の合う職員が担当となり希望等を引き出す様にし、自己決定に結び付けている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、風呂、起床の時間は、柔軟に対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の意見を取り入れ実施している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食には特に入居者の好みを取り入れていいる。食事の準備、片付けにも能力に応じてできている。	入居者の嗜好を反映させた献立の基、刻みやトロミをつける等、一人ひとりの状態に配慮した食事提供を行っている。入居者も、朝食の買い出しや、食事の準備・片付け等、職員と一緒に出来る範囲で、役割を担っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の体調、機能に応じ医者の指示のもと支援している。		

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じたケアができています。睡眠前にはポリドントにて入歯洗浄をしている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンにより、日中は声掛けにて排泄できるよう努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、基本的に日中は、言葉掛け、誘導により、トイレにて排泄を行う等、自立に向けた支援に努めている。夜間も含め、個別のニーズに対応している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維の多い食品を摂取し、その人に応じた身体リハビリをしている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応時間等は決まっているが、本人の希望や体調により柔軟に対応している。	基本的に、週に2回、一人ずつの入浴となっている。夏場は、これに清拭が加わる。希望すれば、毎日の入浴も可能であるが、実態は、入浴を拒否される方が多く、現状が適度の様子である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	遮光や防音等、環境の整備に努めている。(部屋の変更もしている。)		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースを使用し処方箋を貼っている。会議においても話し合っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた役割分担をしており、個別の楽しみにも対応に努めている。		

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力に応じて散歩、買い物、家族との外食等、本人の希望により外出しているよう努めている。	本人のその日の状態に応じて、日常的な外出支援を行っている。職員と一緒に、朝食の買出しや、犬の散歩等は、日課となっている。また個別の要望に応じて、近所のうどん屋や、ショッピングモール、喫茶店等に出掛けている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている人はいるが管理が出来ないので、職員と共に残金を確認し家族にも連絡している。(レシート保管)		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜・早朝を除き、随時電話をかける支援をしている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には季節感のある装飾をしている。建物の周囲には花やゴーヤ等を植え、職員と共に世話をしている。	居間兼食堂の共有空間には、季節の飾りがあり、暮らしに彩を与えている。くつろげるようソファも置かれている。玄関には、花や植物が植えてあり、水やりが入居者の日課となっている。猫を飼っており、入居者の癒しと、お世話という役割に一役買っている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前の窓辺と1Fのフロアに応接セットを設置している。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用してもらい、仏壇もいれている。	各居室には、一人ひとりの使い慣れた調度品や、好みの物が持ち込まれており、本人本位で暮らしやすい空間作りがなされていることがうかがえる。各入口に掛けられた、一人ひとり違う手作りのプレートから、個別性の尊重を感じる。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけ自立歩行支援をし、トイレ等の貼り紙をしている。		